

平新報

發行日 五日發行
山野邊庄吉
編輯兼發行印刷人
平市二丁目拾
發行所 平新報社
廣告費 五號十二字第一行
一、五號十二字第一行
場所指定倍増
送料 定賃金拾錢
五厘

磐城古典研究欄に就いて

(寄與の前置に代へて謹告)

文明は郷土より
私は重ねて東京以来既に遠く離れた自然の景姿に、八年になるが、其の間、専ら史學に従事する傍ら、兼ねては郷土關係の謂はゆる文獻を蒐集して來た爲、其の種類も數百種を算え、從つて之が寫本原本等も、大に藏積するに至つた。けれども身置日夜公俗に遂はれること、加へて年來の眼疾に支障され、些しの閑暇も安逸も許さないので、遺憾ながら未だ其等を整理して目錄を作編するを得ないのは無論、郷土の好事家研究者に之を貢獻能はざるも亦久しかつた。

然るに私は去ぬる四月二十四日、方に選舉最中の郷土に、心ならずも歸省し、目の當り郷土人が相食む政争に直面して、私の常に絶對に把持する郷土文明觀と其れに對する事共が深層に意識考察し、堪へうべからざる之が苦悶を新たに生じ、自ら語らず言はず、乃ち郷土の混亂せる諸態の現實に對して、尤めて怨ます、箴へて憤らす、但だ永

之に従事する經濟力と余隙がないから、兎に角郷土に係はる資料を、手元の書架から手當り次第に見出して家人に命じて寫させ、原本だけは私が直接寫して、以後本紙に送り連載することにした。されば本稿は固より統一と秩序なく、註釋も復び帝都に戻り、依然史學文そのまゝの羅列であるから、取捨、推考は讀者の自由任せたい。

内務省告示第三百八十二號

市制第三條及町村制第三條ニ依り、昭和十二年六月一日ヨリ福島縣石城郡平町及平窪村ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ平市ヲ置ク。

昭和三十二年五月二十二日
内務大臣 河原田 稼吉

報に『磐城古典研究欄』を設けて、私の蓄積せる郷土悉く除き、極めて短篇のもの、稀書、奇文、文學等を寄るの撰採するに勉めたい。(昭和十二年五月、十五、目黒龍天寺畔にて) 目黒龍天寺畔にて



縣參事會員 關内正一氏



平信用組合長 諸橋久太郎氏



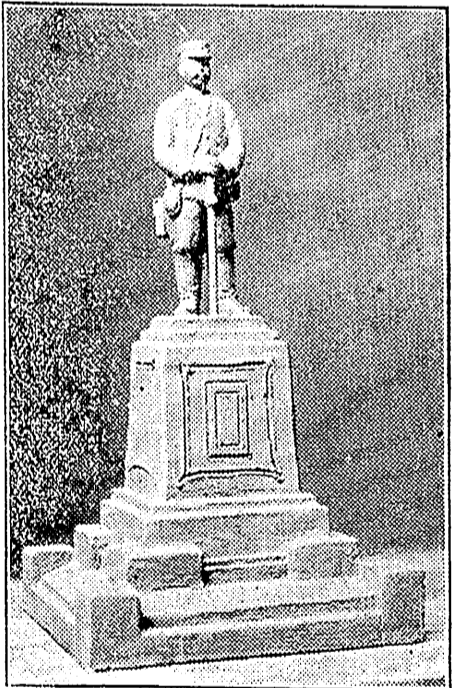
平商工會長 山崎清三氏



平市長代理 青沼録太郎氏



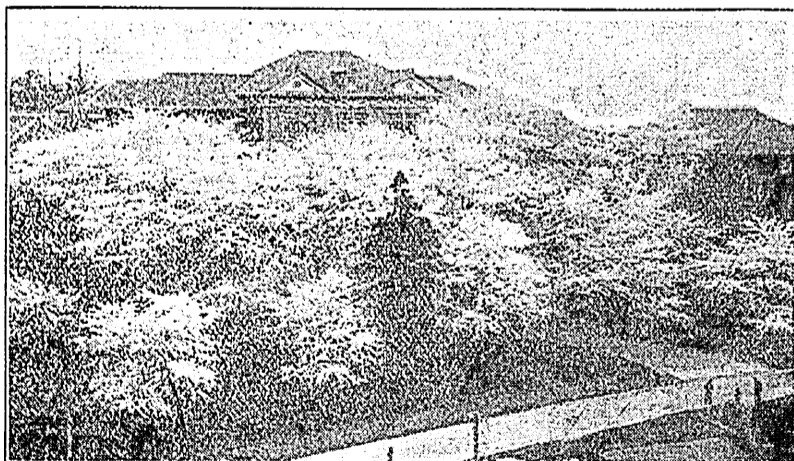
平消防組頭 井上茂作氏



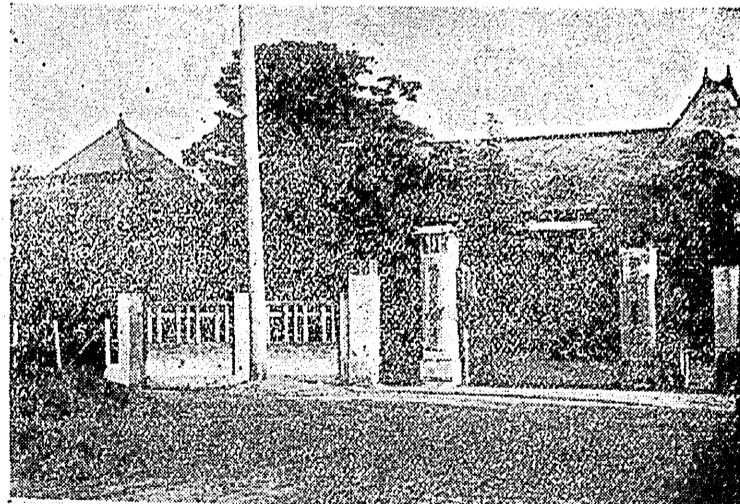
縣社子鍛合神社境内大越中佐銅像



池ヶ理園公園ヶ松市平



平商業學校



警視署長に昇格する 平警察署

石城郡各町村會議員選舉日割と定員數

町村名	月日	選舉員數	定員數
町村名	月日	選舉員數	定員數
江名町	四五	一八名	六七
鹿島村	五七	二二名	六八
入道野	五八	二二名	六八
草野村	五八	二二名	六八
草野村	五八	二二名	六八
高久	五八	二二名	六八
小川組合	五八	二二名	六八
神谷	五八	二二名	六八
渡邊	五八	二二名	六八
四ツ倉	五八	二二名	六八
錦崎	五八	二二名	六八
泉崎	五八	二二名	六八
飯野	五八	二二名	六八
上野	五八	二二名	六八
箕輪	五八	二二名	六八
三阪組合	五八	二二名	六八

祝平市制

平市二丁目	關内正一
平市紺屋町	吉田寅之輔
平市研町	吉村安治郎
平市月見町	根本品藏
平市大町	小宅嘉久治

諸橋敬一郎

大村	大村屋一旅館
常盤屋	時計店
坂本	紙店
西村	屋藥局
大屋	一商店
魚清	水卸部
谷口	樓
三井	自動車部
マルト	毛書店
伊勢屋	荒物店
釜屋	商店
二葉	印刷所

マサヤ商店

平市長橋町	マサヤ商店
平	消費防組
平	銀行組合
平	庶民金庫
平	日本電力平營業所
平	藝妓屋組合
平	料理屋組合

平	吳服商組合
平	川又商店
平	小野榮吳服店
平	谷屋吳服店
平	諸橋吳服店
平	仙臺屋吳服店
平	伊關吳服店
平	三井吳服店
平	松屋吳服店
平	吉田屋吳服店
平	北川吳服店
平	渡邊吳服店
平	松屋吳服店
平	吉田屋吳服店
平	仙臺屋吳服店
平	伊關吳服店
平	三井吳服店
平	川又商店
平	小野榮吳服店
平	谷屋吳服店
平	諸橋吳服店

謹啓 御慶昌奉大賀候
陳者毎度御愛顧を賜り居り候當石炭部時運の展
開に伴ひ御慶昌日増の繁忙を極め居り候
倍而今回下記専用電話を以て一層御取引の圓滑
を盡し候間從前に倍し御引立被成下度先は御禮
勞得意度候
敬白
電話 一三二番
湯本 一三二番
福島縣湯本町
岳東商事石炭部
鯨岡 潔

藤沼醫院

内科、小兒科
平市紺屋町 電話五〇七番

吸入用酸素 純度 99%
モノサシ
ハカリ
マカサ
器量計
体温器
寒暖計

關内藥局
回秤ノ取締・鍍糸・修覆致シマス
回寫眞機
材料一式
電話四〇番

高久病院
平市田町 (電話五一三番)
院長 高久 忠
副院長 赤羽 清
藥局長 佐竹 菊雄